

卒業する今

新しい一歩を踏み出す人、
仲間を送り出す人——。
各部の方に、今の思いをききました。



高等部 Senior High School

神さまのご計画を信じて

野呂 道子 高等部3年

私の高等部生活を振り返ると、常に神さまのご計画が働いていたように感じます。特に最後の1年は思いがけないウイルスの流行など苦しい出来事も多くありましたが、その分当たり前に学校に通えること、友人に会えることの幸せと感謝に気づかされました。

また昨夏、尊敬していた教会のおじいさまを突然天国にお送りすることとなり、素晴らしい方だけだけに神さまなぜですか、と神さまのご計画が分からず悩んだ時もありました。しかし悩む中で、私にできることはそのご計画の意味が分かる日まで神様を信じ祈り続けることだけだ、と思い受洗を決意しました。

クリスチャンの母と一緒に幼いころから毎週教会に通っており、教会に連なることが当たり前すぎて逆に受洗を決心できずにいた私が、大切な方の死をきっかけに受洗したこともきつと神さまのご計画だったのだろうと感じています。

卒業後も「何事にも時がある」という聖書のみ言葉にあるように、神さまのご計画を信じて祈りつつ歩んでいけたらと思います。

すべてが益となる

樋口 玲子 高等部3学年主任

高等部生活で一番印象に残っていることは何ですか？

2ヵ月間のオンライン授業。登校再開で友に会えた喜び。前を向き無言で食べた昼食…どれも忘れられない経験ですが、3年間の中ではほんの一時の出来事です。本当はその前2年間にも多くの経験があり、この1年はそれらを土台にした集大成の年でした。この異例な1年の印象は大きいですが、それにばかり目を向けるのではなく、この3年間のすべてを通して得たことを大切にしてほしいと思います。

「万事が益となるように共に働く」(ローマ8:28)と聖書は語ります。私たちに起こる出来事は神様のご計画の中にあり、たとえその時私たちの目には無意味に見えても、いつかはすべてが繋がりと益となる、という意味です。

この3年間の経験も、今後経験するどんな幸せも試練も、すべてが益となり何一つ無駄に終わることはありません。そう信じて、どんな時も前向きに歩んで行ってください。皆さんの前途に神様のお守りをお祈りしています。



コロナ禍での生徒会行事



クリスマス礼拝の収録風景